濫読のすすめ

鹿嶋　勉（高校　理科）

還暦を過ぎましたが、濫読です。それは若い人の読み方でしょうと、仰る向きもあるかと思いますが、私には関係ありません。（そう言えば今の若い人が本を読んでいる姿をあまり目にしませんな。スマホに親指を当ててうつむく若者は、毎日見かけます。）

それに濫読は目に悪いでしょう。ハイ、私、少々緑内障を発症し、右目には白内障も…。もし読めなくなったらそんで終わり、行けるところまで行けばいいのです。なんせ還暦過ぎましたから。

ところで瑞穂高校の図書館は凄いです。

今年の四月、YouTubeで作家の佐藤優が東日本大震災以降、越谷オサムの「陽だまりの彼女」が売れたという話をしていました。作品は震災以前のもの。翌日、図書館で問い合わせをしたら、すぐに司書さんが用意してくれました。いわゆるライトノベルで、あっという間に読めます。文学的にどうのこうのという作品ではありませんが、震災で多くの方が亡くなり、「生まれ変わりの思想」が日本人の心の拠り所の一つになっているのだと佐藤氏は解説しています。（子供の頃拾った雌のネコ。母親に捨てるように言われ、泣く泣くの別れ。やがてそのネコが女の子として主人公の前に。やがて結婚。幸せに暮らすが、彼女はいなくなる。そしてまた子ネコとして彼の元へ。ネタをバラしてすいません。）

その後、高橋源一郎が震災後の文学として、川上弘美の「神様2011」は必読だと書いていました。さっそく司書さんに尋ねたところ、「それでも三月はまた…」という短編集を探していただきました。そこには「神様2011」と、ほぼ彼女のデビュー作と言っていい「神様」も掲載されているだけでなく、谷川俊太郎や小川洋子他、多くの作家の震災をテーマにした作品が収められています。小説を読むのはいったい何年ぶりなんだろう。忘れていた何かを思い出せそうな気分になっていたその矢先、教え子たちが我が家に呑みにきて、「西加奈子が面白い」という話を耳にしました。図書館でも書店でもめったに小説コーナーに立ち寄ることはなくなっていましたので、新しい作家は知りません。ただ「西加奈子」という名前が頭に残っていたため、瑞穂高校の図書館で「ふくわらい」を手にしてしまいました。これがいけなかった。「漁港の肉子ちゃん」「舞台」「炎上する君」「i」「さくら」「円卓」「きいろいゾウ」…止まりません。もちろん誰も止めてはくれません。この夏には手に入る西加奈子作品をほぼ読んでしまい、それだけではなく、川上弘美「センセイの鞄」、又吉直樹「火花」、村田沙耶香「コンビニ人間」、白石一文「この世の全部を敵に回して」等など、気がつけば、ひと夏を小説ばかりで過ごしてしまいました。あらあら…。

九月になって、ハッと我に返ったように、元通りの雑多な濫読が続いています。ここまで辛抱して読んでくれた高校生のあなた。（あまりいないと思いますが…）お説教ではありません。濫読をすすめます。そして映画も死ぬほど観てください。始めはくだらない作品ばかりを観ますが、そのうち本物の映画の方からあなたに近づいてきます。音楽も山ほど聴いてくださいね。ポップスやロックを丹念に聴いていますと、必ず、バッハやモーツアルトやベートーベンが近づいて来ます。しかも必ず珠玉の演奏に出会います。本物を知らずに大人になってはいけませんよ。

なぜ還暦を過ぎた私が濫読を続けるかって？それは自分がどこに立っているのか、どんな時代に生きているのか？ぼんやりとでも知りたい。そういうことです。残された時間はそれほど多くはありません。濫読を続けます。

（瑞穂高校の司書の皆様、いつも感謝しています。職員室に設置される移動図書コーナーの質の高さと広いジャンルに毎回驚かされます。この原稿の依頼も嬉しかったです。アウトプットはいいですね。自分を振り返ることができました。尚、原稿中の作家名は敬称略としました。）

本嫌いからのきっかけ

播磨　季美（高校　保健体育科）

私にとって本とは、「時間がかかる」というイメージがある。いわゆる「本嫌い」だ。どちらかというと昔から外で遊ぶことが多く、じっとしていられないタイプだ。母親からは「本を読みなさい」と長年言われ続けたが、習い事も多かった私は余暇の時間もあまりなく、時間が空けば録画したアニメやドラマに時間を使っていた。部活動も忙しくなり、やることは「練習」「食べる」「寝る」この三拍子だった。「本を読んだ方がいい」「読まなくちゃいけない」そうとは思っていてもなかなか手を伸ばせなかった。

そのような私でも、これまでに本に夢中になった時期が何回かあり、その二回を紹介する。

一度目は、小学校の「読書の時間」。週に一度、朝のST10分間を使って強制的に本を読む時間が与えられる。教室に何冊か貸し出し用の本があり、私はその中のなるべく字が大きく、ページ数が少ない本を手元に持ってくる。聞こえてくる穏やかな音楽の中、本の中に並べてある字を読むことが私にとっての「読書の時間」だった。もちろん内容は頭になど入っていない。「読書の時間」というよりは「音楽を聴く時間」になっていた。そんな時、新しい本が教室に運ばれてきた。その新しい本の中にある一冊が私の目に止まった。「ダレン・シャン」という本だ。私の兄が愛用して読んでおり、シリーズの新刊が出ればすぐ本屋に駆け込み、購入するほどだ。兄の姿を見て、「どれだけ面白いのだろう」と私はその本に手を伸ばし、読書の時間を使って読み始めた。人種差別について興味があった私は、「人間がバンパイアになって夜のサーカスの見世物にさせられる」という話に飲み込まれていった。そこから朝の「読書の時間」から「休み時間」、休みの日の机の上に向かって読むようになった。続きが気になり、全巻読むことができた。当時の私からは「一冊読み終えれば良い方だろう」というレベルだったのでかなりの成長だ。

二度目は、私が中学生の頃に流行っていた携帯小説というものだ。その頃、中学生が携帯電話を一人一台持ち始める時代で、ちょうどインターネットで日記を公開する「ブログ」が流行り始めた。その中で若い女性が自らの恋愛の実体験をもとにストーリーとしてネットに公開し、それが小説化された。本を読まないような友達も授業の空き時間に読むようになった。それに興味を持った私は、軽い気持ちで友達から恋愛小説の本を借りることになった。思春期だった私は話にどんどん飲み込まれていき、物語のクライマックスには、頬に涙が流れていた。恋愛ストーリーを通して友人、恋人、家族を思いやる気持ちを学んだ。そして、時には中々身近には起こらない「病気との闘い」を鮮明に想像でき、「もし私がこの立場ならば」と考えるようになった。

私にとって本は、「時間がかかる」というイメージから「知らない事を学べるもの」という考え方に変わっていった。自分の知らないことを気軽に学べ、本だけに集中することができる。「なかなか本をゆっくり読む時間がない」「めんどくさい」そのように考える人もいるだろう。まずは、図書館や本屋に足を運び、本を眺めるだけでもいい。そこから興味のある題名を選び、本に手を伸ばしてみること。読み始めて面白そうでなければ、やめてまた他の本を探せばいい。「本」という重いイメージから気軽なものに、自分から意識を変えていくことが「本嫌い」から抜ける道だと私は思う。私のように「きっかけ」は気付かない所に転がっているだろう。

図書館クルーにインタビュー！

「図書館クルー」としてアルバイトをしている有馬千晶さん（養護・保健コース４年）にインタビューしました。１年生からクルーを始め、今ではリーダーも務めています。さらに３年生のとき司書講習を受講し、図書館司書の資格を取得しました。

Q 司書講習を受けた動機

高校時代、養護教諭か図書館司書かで進路に迷っていました。結局、養護教諭を選んでこの大学に進学しましたが…もう一つの夢だった司書の資格も諦めきれませんでした。クルーになって本に触れる機会が増え、やっぱり図書館が好きだなと感じ、もっと図書館の仕事を知りたいと思いました。先輩や先生からアドバイスを頂き、受講する決心がつきました。

Q 司書講習の感想

すごく大変でした。大学の定期試験と講習が重なるので、前期の講義がほとんど履修できませんでした。でも講習自体は楽しかったです。普段触れることのない貴重な本も見ることができました。色々な年齢の方が受講していたのも驚きました。幅広い年齢の方と知り合いになりました。課題や試験など大変でしたが、受講して本当に良かったと思います。

Q 司書講習後、図書館に対して思うこと

図書館の仕組みや司書の役割の大切さを感じました。本一冊ずつに付けられている分類の意味も知らなかったので、理解すると本の探しやすさが全然違います。

講義でレファレンスを経験しましたが、とても難しかったです。司書の方がレファレンスをしている姿を見て、改めてすごさが分かりました。（レファレンス…利用者へ資料や情報の提供をお手伝いする仕事）

Q 約４年間クルーを勤めた感想

最初はすごく緊張しました。でも利用者の反応が見られて、人と対面する仕事はいいなと思いました。図書館司書の資格も取り、それを活かした職に就きたかったのですが、それは叶わず…でも図書館クルーを通して、人と接する仕事は素敵だなと思いました。接客業の会社に就職予定です。

Q リーダーを経験して

まとめ役は苦手なので、初めはどうしようかと思いました。リーダーとして本の展示を発案して、みんなでPOP作成や飾り付けをし、周りから好評だったのは楽しい思い出です。

まとめ役をすることで、他のクルーの長所、知らなかった一面を発見できました。後輩との連携など苦労もありましたが、これから先、人をまとめる場面は必ずあるので、その時にリーダーの経験が役に立ったらいいなと思います。

Q 司書講習から１年経っての心境

講習で出会った社会人の方と今も交流があります。大人の方と接していると、自分の社交性のなさや考えの狭さに気がつきます。自分では思いつかないような考え方の人たちと出会い、刺激を受けています。

就職先では企画の仕事をすることもあるそうです。企画の仕事は、色々な物の見方が必要だと思います。様々な角度から物を見られる感覚を磨いていきたいです。

Q 今後の夢

自分と関わったことで「良かった」と思ってもらえる人間になりたいです。クルーリーダーをやっていて後輩に「有馬さんがいて良かった」と言われたことが嬉しくて心に残っています。接客業の仕事に就くので、これから出会う人たちに、そう思ってもらえたらいいなと思います。

発　行：名古屋市瑞穂区春敲町 2-13　瀬木学園図書館　2017 年 12 月　NO.36　印刷：富士ゼロックスサービスリンク㈱